

In the Case of “Kids Island”

2～4歳児が英語で学ぶ
「キッズアイランド」の場合

“プリスクール”を訪ねる

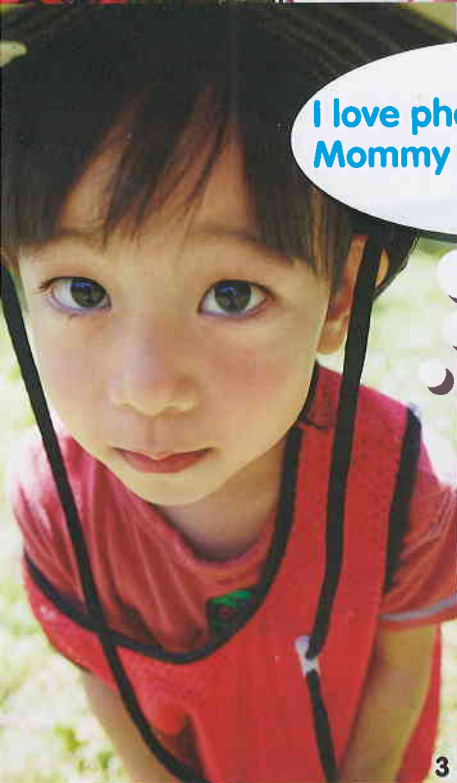
10年ほど前から都市圏で増え始めたプリスクールは、就学前の子どもを主に英語環境で保育する施設のこと。英語教育に熱心な親たちに注目されているが、プリスクールの幼児英語教育が目指すところとは何か？ 7年前に金融界でのキャリアを投げ捨て、プリスクール「キッズアイランド」を東京・世田谷に設立した塚谷武志さんに、話を聞いた。

写真：浅田 創（セセッション） 文：小松めぐみ（GQ）





1



I love photos!
Mommy always takes!

1: 砧公園で、蝶を捕まえて観察する子どもたち。「動物や自然に直に接して、命を尊重する気持ちを感じてくれれば」と塚谷さん。2: 「What's the color of this?」「It is purple!!」 3: カラダを動かすことと、カメラ目線が得意のこうたろうくん。

3



2

Kids Island

キッズアイランド

英語でさまざまな活動を行う本校は、現在2校あり、どちらも公園の近くという立地。2〜4歳児を10〜12名1クラスで編成。月〜金9:30〜14:00 入会金 ¥63,000、週1日で月謝 ¥28,350
駒沢校 ● 東京都世田谷区駒沢5-5-11 ☎03-5758-3229
砧公園校 ● 東京都世田谷区上用賀5-23-2 ☎03-5707-9177
<http://www.kids-island.biz/>

元エリート銀行員が プリスクールをつくった理由。

窓外に砧公園の緑が広がるマンションの3階。2〜3歳の幼い子どもたちが外国人講師のもとに集う空間には、明るく大きな英語圏の雰囲気が漂っている。まるで外国人の子どもがいる家庭を訪ねたかのようなのだが、ここは幼児に対してさまざまな指導を英語で行うプリスクール。かつてエリート銀行マンだった塚谷武志さんが2006年に設立した「キッズアイランド」だ。

それにしても、金融の世界で活躍していたビジネスマンがスーツを脱ぎ捨て、幼児教育の世界へ身を投じたのはなぜか？

「銀行員時代はアジアを中心に長く海外で仕事をしていたのですが、そのときに強く印象に残ったのは出会った人たちの個々の強さや、自分に対する自信でした。国際的な会議の場では発信力と交渉力がないと意見が通りませんが、日本人はその力が弱い。子

どもを見ても、町を走り回るアジアの子どもは日本の子どもよりずっとたくましく思えました。帰国してみると、東京の子どもたちは「都の暮らし」に慣れて貴族化しているように見えましたね。もっと人と自然とたっぷり触れ合い、タフでスマートな大人に育ててほしいと思ったんです」

そこで豊かな自然が息づく東京・西郊の駒沢公園の近くのマンションの1フロアを借り、1号校となるプリスクールを開校した。2011年に開校した砧校も、砧公園の向かいというロケーションで、大きな公園が近くにあることが条件になっているようだ。というのも、「キッズアイランド」に通う子どもたちは毎日講師に連れられ、歩いて公園に遊びに行く。

「寒いときは寒い、暑いときは暑い。自然を感じながら外遊びをすることで、体力と感性が磨かれます。

公園は管理された安全な場所ですが、自然に近い環境があります。そして、たくさんのごことを自然から学ぶことができます。どこまでが安全で、どこからが危険か、手探りで確かめる経験を通じてリスク

感覚を養うことは、子どもの成長にとって大切な要素だと考えています」

陽あたりのいい広い部屋に安全で質の高い遊具が置かれた教室では、全米有数の幼児教育カリキュラムをベースにしたさまざまな質の高いプログラムが、外国人講師と日本人バイリンガル講師のふたり体制で行われている。外国人講師は大らかでユーモア溢れるエンターテイナーとして全体をリードし、日本人講師はひとりひとりにじっくり向きあいサポートする形だ。園児は主に日本人で、ハーフの子も数人いる。インターナショナル・スクールほど外国人の子どもは多くないが、ここでは皆英語で会話する。

外国人の感性に触れ、 海外への興味を養ってほしい。

「親がお子さんをごに預ける動機は、やはり英語重視、しつけ重視の場合が多いですね。ただ、僕が想定していたよりも皆さん、英語、英語とおっしゃいません。僕がクラスで英語を使うことを決め



Pink is my favorite!
It is for girls...



4: おえかきタイムに、集中するかおちゃん。自分の好きな色を選んで、ぬり絵する。選びたい色は、英語でリクエストする。ピンクは女子として、ゆずれないのだそう。かおちゃんは、こうたろうくんの双子の姉。お姉ちゃんのほうが断然しっかりしているそう。5: アート&クラフトの時間。選ぶ色や作品から、子どもの個性を感じることができる。6: こうたろうくんは席を立ちたくて、ウズウズ。「もう、ぬり終わったもん」。



幼児期に国際的な環境で
人や自然とたっぷり触れ合うことで、
創造性、たくましさ、国際性が磨かれると思う

たのはもちろん早期英語教育の意味もありますが、外国人の講師と接することで日本人と違ういろんな感性に触れてほしいと思ったからです。幼いころから英語を使うことによって、英語や海外の文化への興味が養われます。語学や音楽など、耳に関する教育は早く始めたほうが有利ですが、言葉(習得した外国語)は人としての自立心やコミュニケーション力があって初めて、使えるようになる。ここを卒業した子どもは日本の幼稚園に進むことが多いですが、大きくなってから英語が話せるようになるためには、卒業後も学習を続けることが大切です。学校の体育の授業だけでサッカー選手にはなれませんし、ピアノのお稽古に通うだけでピアニストにはなれません。英語もプリスクールに入れただけで英語が話せる大人には育ちません」

プリスクールでの学びは受験のように数字で結果

が出るわけではない。しかし、子どもたちはなによりここで過ごす時間を楽しんでいるのだという。

「何が幸せかということは、ひとりひとり違います。ただ、その人のルーツとして『ここに楽しさがあった』と思える経験があり、将来、それを仕事に生かせたら、幸せなことじゃないかと思います。僕はこのプリスクールで子どもが楽しさの原体験をつくり、将来好きなことを見つける力と、好きなことに一生懸命になる力、そして最終的にはタフさ、スマートさを身につけ、自分の頭で考え抜く力をもてるようになることを期待しています」

塚谷さんの話を聞いているうちに、就職の前に悩んでいた自分の20代前半のことが思い出された。「やりたいことをやりなさい」と言われて自問自答したとき、結局自分がやりたいことは幼少期に楽しいと感じたことの延長にあった。幼児期の体験は一生の財産だ。



塚谷 武志

キッズアイランド ディレクター

大阪府出身。京都大学工学部卒、南カリフォルニア大学 MBA 取得。現三菱東京 UFJ 銀行に入行し、米国やシンガポールに駐在。国際ビジネスに従事後、2006年「キッズアイランド駒沢校」設立。11年「キッズアイランド砧校」設立。1女の父。